平 成 30 年 度　自 己 評 価 表(中間評価)

鳥取県立日野高等学校

中長期目標（学校ビジョン）	社会の中でたくましく生きるための学力や豊かな人間性を育み、地域社会の発展に貢献できる人材の育成を図る

今年度の重点目標	1 【主体的な学びの推進】課題を認識し、解決の方策を考え、行動する力を育成する 2 【社会性の育成】人と関わる力、自分の感情・行動をコントロールする力を育成する 3 【地域資源の活用】地域に貢献する力を育成する

年　度　当　初					評　価　結　果（10)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標 （年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過･達成状況	評価	改善方策
1 学びの質的改善	学びに向かう意欲・意識の醸成	○一般常識小テストにおいて、毎回「学びのルール」から問題を出題している。 ○授業関係で指導改善カードを受けた生徒は延べ29 名。 ○6月と9月に家庭学習時間調査を実施し、家庭学習状況を把握した。担任面談での活用を図ったが、活用効果が期待できる分析まで到っていない。 ○本校の進路指導に肯定的な回答をする生徒が64% ○タブレットを活用した授業を行った教員は33%であった。	○「学びのルール」を覚えている生徒が80%以上。 ○授業関係で指導改善カードを受けた生徒が延べ30人以下。（平成31年度には20名以下） ○生徒の家庭学習実態を把握し、学習指導の改善に活かし、自らの授業への取組み姿勢に肯定的な回答をする生徒が60%以上。(平成31年度には75%) ○本校の進路指導に肯定的な回答をする生徒が70%以上(H31 年度には80%) ○タブレットを活用した授業を実施している教員が40%以上。(平成31年度には50%以上)	○「学びのルール」を活用した指導を継続して行う。定着の把握を行うため学校評価アンケートに質問項目を追記し、今後の指導に活用する。 ○年度当初に教職員にカード指導の徹底を図るとともに、10 月にも職員研修を実施し、職員間で差のない適切なカード指導の運用に努める。 ○授業の工夫や課題の出題など、家庭学習の習慣化を促す指導を行う。 ○進路ＬＨＲ、面接週間、保護者懇談等において、教育企画部、キャリア形成部が連携して、生徒の進路意識と学力の向上に資する情報提供、指導･助言を行う。 ○インターネット環境の整備を行うとともに、タブレット端末を活用した授業指導を研究し、電子黒板･デジタル教科書及びタブレットを活用した授業の研修会を開催する。	○一般常識小テスト①の結果から、80%以上の生徒が覚えている。 ○9月末現在、授業放棄･授業さぼりで指導改善カードを受けた生徒は延べ55名であった。 ○年度当初及び10月職員会議において指導改善カードの運用について再確認した。 ○自らの授業への取組み姿勢に肯定的な回答が70%以上である。 ○本校の進路指導に肯定的な回答をした生徒は79. 9%であった(H29:59%)。 ○10月の面接週間において2年次生の面接にキャリア形成部が同席し、進学希望の生徒に必要な助言及び指導を行った。 ○タブレットを活用した授業を実施している教員が48%であった(H29:33%)。	B	○今後、「学びのルール」から月毎の重点目標を設定し、定着を図る。 ○指導改善カードの枚数が一定の範囲を超える生徒に対し、生活指導委員会の開催を前向きに検討。 ○家庭学習時間が不足している生徒が多く、今後も授業の工夫、課題の出題等、家庭学習の習慣化を促す指導を行う。 ○進路模試の内容や実施回数、実施時期の検討を行い、進学指導の充実を図る。 ○早期から担任と教育企画部、キャリア形成部が連携した進路指導を行い、生徒の進路意識の高揚を図る。 ○タブレットのアプリ活用例を教職員に紹介する等、活用の研修を行い、授業の改善に取り組む。
	協同学習の実践(試行錯誤)	○年2回の授業公開週間に協同学習に関する授業研究会をそれぞれ実施したこともあり、71%の教員が「授業の質的改善に取り組んでいる」と回答した。 ○公開授業週間での参観シートの利用枚数は延べ13枚にとどまった。 ○「総合的な学習の時間」や「産業社会と人間」において、協同的な学びの場を多く取り入れ、コーディネーターとの連携を図りつつ、地域資源を活用した学びに取り組んでいる。	○授業の質的改善に取り組んでいると回答する教員が65%以上。(平成31年度には100%) ○公開授業週間の参観シートの利用枚数が延べ50枚以上。 ○「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」の授業において生徒が協同して学ぶことができるようになる。	○協同学習の推進(H30:試行錯誤期)に向け注力する授業科目の決定と、一人あたり年間2回の授業プランシートを活用した授業公開を実施することにより、授業研究を活性化し、授業の質的改善へつなげる。 ○「産業社会と人間」等における教育内容･評価について、有識者の力も借りながら工夫･改善していく。	○85. 7%の教員が「授業の質的改善に取組んでいる」と回答した。 ○1学期の第１回公開授業週間で参観シートを全教職員に配布し、授業の質的改善を促進した。 ○「産業社会と人間」では、協同的な学びの場面を多く用意できた。 ○「課題研究」では、地域に還元できるテーマの設定を増やすことができたが、グループによって充実度に差が見られる。	B	○授業プランシートを活用した授業公開を継続して行い、教員間の協同学習の視点の共有化と授業改善に係る意欲の向上を図る。 ○2学期の第 2 回公開授業週間での参観シート活用を促進し、授業のさらなる質的改善へつなげる。 ○「産業社会と人間」等における活動の定期的な評価の実施方法･内容について検討する。
2 社会の中で生き抜く力の育成	人と関わる力の伸長	○コミュニケーション力や他者と協同･協調する力が不十分である。 ○他者を傷つける、いじめ等の行為により指導を受けた生徒は延べ15人。 ○1 年次生が 8 月に実施した人間力アップ合宿後の対人関係における指導件数は１件のみ。	○「他者理解において成長を実感できた」と回答する生徒が70%以上。(平成31年度は80%以上) ○学校生活や授業を通して、適切な自己開示のもとに多様な個性を認め合い、同学年･他学年の生徒とコミュニケーションを取り、他者と協同･協調することができるようになる。 ○他者を傷付ける、いじめ、SNSへの書込み、行き過ぎた行為により指導を受けた生徒が延べ10 人以下。(平成31年度には延べ5人以下)	○生徒の特性に合ったWYSH教育の内容を引き続き検討する。 ○授業や特別活動を通して生徒同士が適切に自己開示し、協同･協調する場面を多く設定する。 ○各学期の始業式･終業式後に全校集会･学年集会を開催し、学校生活の諸課題に対する意識の高揚を図る。 ○いじめは絶対に許さないという指導を粘り強く行うとともに、いじめアンケートやこころのメッセージ及び生徒の普段の様子を把握し、組織的かつ迅速な対応を行う。 ○他者との関わりの大切さやその喜びを学べるよう人間力アップ合宿などの教育活動を充実させる。	○「あなたは、相手の気持ちを大切にすることができていますか」「あなたは、人との出会いを通して成長感じていますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒が79. 4%、77. 2%であった。 ○「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」、特別活動を通して、他者理解および自己開示の場面を意図的に設定した。 ○終業式･始業式後の学年集会において、学年全体の目標や評価を提示することで、集団としての課題認識や学習意欲、進路意識の高揚を図った。 ○9月末現在、他者を傷付ける、いじめ、SNSへの書込み、行き過ぎた行為により指導を受けた生徒は延べ8名であった。 ○5月に「いじめアンケート」、6月、7月、8月、10月に「こころのメッセージ」を実施した。	B	○「いじめアンケート」を11月、2月に実施、「こころのメッセージ」を12月、1月に実施して、いじめの早期発見や生徒の変化を注視する。 ○引き続き授業や特別活動において、適切な自己開示ができる仕掛けや場面を設定し、他者理解･自己理解、コミュニケーション力の育成を図る。
	感情･行動をコントロールする力の増大	○自尊感情や自己有用感の低い生徒が多い。 ○暴力行為、暴言、器物破損等の指導件数が平成 29 年度に4件。 ○個々の生徒の特性、課題を把握し、ケース会議等の開催や、教育相談員･SSW等と連携することで、個に応じた支援を行っている。 ○朝食を全く摂らない生徒が約12%。	○自尊感情や自己有用感に関するアンケート項目に、肯定的な回答をする生徒が45%以上。(平成31年度には60%) ○暴力行為、暴言、器物破損等の指導件数が3件以下。（平成31年度は2件以下） ○生徒は場に応じて感情や行動を自制でき、安心して学校生活を送っている。 ○朝食を全く摂らない生徒が10%未満。 ○生徒の学校満足度が75%以上。(平成31年度には80%以上)	○生徒の地域貢献活動を積極的に報道提供し、生徒の自尊感情や達成感を醸成する。 ○全教職員が指導方針を統一した上で、一人ひとりを大切にした指導を行う。 ○生徒会執行部や学校祭実行委員会おいて生徒が主体的に運営するように指導する。 ○生徒の特性に合ったWYSH教育の内容を引き続き検討する。 ○ストレスマネジメント(全学年対象)と実施する。 ○「食事についてのアンケート」を実施し、結果を周知し、啓発を行う。対象生徒への個別指導を行う。	○自尊感情や自己有用感に関するアンケート項目に、肯定的な回答をした生徒は約38%であった(H29:28%)。 ○9月末現在、暴力行為、暴言、器物破損等の指導件数は4件であった。 ○「相手の気持ちを大切にすることができている」、「安心して楽しく学校生活が送れている」と肯定的に回答した生徒は79. 4%、73. 5%であった。 ○食事に関するアンケートを９月に実施。朝食を全く摂らない生徒は7. 2%であった。10月の保健だよりで結果について周知、啓発をした。 ○ストレスマネジメントを3年次生を対象に9月に実施した。 ○生徒の学校満足度に関する肯定的な回答は約75%であった(H29:68%)。	C	○ストレスマネジメントを1･2年次生については11月に実施する。 ○WYSH教育LHRを11月実施する。 ○人権教育LHR等の特別活動や進路指導を通して、感情や行動をコントロールする力の育成や、規範意識の醸成を図る。 ○地域貢献としての生徒の活動を積極的に報道提供し、生徒の自尊感情や達成感を醸成する。
3 地域と連携した教育の推進	地域に貢献する意欲の醸成	○「地域と連携した学びが充実している」と肯定的に回答した生徒は69% ○H29に「職場体験学習」を実施した26事業所の内、日野郡内では22事業所(85%)であった。 ○地域の人材･資源を活用した授業や町内ボランティア活動等を行い、地域貢献活動の充実を図っている。	○「地域と連携した学びが充実している」と肯定的に回答する生徒が72%以上(H31は75%) ○日野郡内の事業所での「職場体験学習」の実施率が88%(H31も88%) ○地域の人材･資源を活用した授業等を実施し、生徒が地域を知り、地域に対して自分ができることを考えるようになる。 ○生徒が部活動、生徒会活動、学校行事等で、地域貢献を発案できるようになる。 ○校内および地域環境への意識が高まっている。	○コーディネーターと連携して地域の事業所と関わる教育活動内容を充実させる。 ○1 年次の「産業社会と人間」との接続を見据えた系統的な教育活動を計画する。 ○生徒会を中心に小中高合同ボランティアを清掃や福祉餅つき等において、地域貢献をより主体的に考案する機会を用意する。 ○ゴミ出さないDay、ゴミ減量チャレンジを実施する。	○「地域と連携した学びが充実している」と肯定的回答した生徒は88. 1%であった(H29:63%) ○職場体験を実施した23事業所の内、日野郡内は22事業所(95. 7%)で職場体験を実施した(H29:22／26事業所(85%))。 ○コーディネーターと連携し、地域資源を活用した学びの場面を多々設定した。 ○小中高合同ボランティア清掃は雨天のため中止。 ○ごみ出さないDayとゴミ減量チャレンジを実施。ゴミを出さないことに対する意識は高まっている。	B	○本校の教育活動が地域に還元できているかという評価の実施方法･内容について検討する。 ○福祉餅つきにおいて配布方法等など主体的なかかわり方を生徒に考案させる。 ○ゴミ減量チャレンジを2学期、3学期も実施する。

評価基準　A：十分達成〔100%〕　B：概ね達成〔80%程度〕　C:：変化の兆し〔60%程度〕　D：:まだ不十分〔40%程度〕　E：目標・方策の見直〔30%以下〕